

# 女性議員の活躍を知ろう

## 大野城市、飯塚市の女性団体が開催

国会議員、地方議会議員選挙の立候補者数を均等にすることを旨とする「政治分野における男女共同参画推進法」（通称：候補者男女均等法）が2018年5月に施行されて2年が経ちました。まだまだ少ない女性議員ですが、その活躍を知る催しが少しずつ増えているようです。福岡県大野城市と飯塚市の女性団体が主催した会合を紹介します。両会場とも参加者の熱気にあふれ、関心の高さがうかがえました。

### 大野城市

福岡県内で最も女性議員比率が高い自治体の一つ大野城市（議員20人中5人が女性）で1月、「大野城市議会女性議員の「声」を聴く！」（大野城女性の会主催）が開かれました。5人の議員全員のスケジュールを押さえるのが難しい中で実現したという会には、約50人の市民が参加しました。

各議員が自己紹介をし、子育てや介護の経験、女性や子どもの貧困と虐待問題に取り組む市民運動の経験などバックグラウンドは様々ですが、市民の不満や困ったことを直接行政に質問できる一般質問に積極的に登壇。生活者の視点を生かし、市政に取り組んでいる姿勢がうかがえました。

市政の課題はすぐに解決するものは少ないとしながらも、「保育料算定の基準となる収入区分を細かく設定することで、利用者の負担軽減につなげることを市議会で提案したら、ほどなく実現した」などの成果も紹介されました。



「大野城市議会 女性議員の「声」を聴く！」開催の様子

### 飯塚市

議員定数28に対し女性はわずか一人という飯塚市では2月、「私たちのまちは私たちが変える～女性議員の1年間から見てきたこと」が開催されました。「女性議員を増やそう」との思いで学習会を続けてきたコスモスの主催。

2019年4月の統一地方選で初当選した飯塚市議、福岡市議、福岡県議の3人の女性議員が登壇。この1年間で見えてきた「過去・現在・未来」についてパネルディスカッションを行いました。

参加者からは、「子育て・仕事の両立は議員さんも同じなんだと思った。議会に関心を持つことが市政を変える第一歩だと感じた」「女性議員が増えることで女性が生きやすい、生きる力を持つことが出来るようになると思った」など前向きな感想が集まりました。

### 福岡県内の市町村議会における女性議員比率ランキング （2020年4月1日現在）

順位	地域	女性議員比率	順位	地域	女性議員比率
1	大牟田市	25.0%	31	粕屋町	12.5%
1	春日市	25.0%	31	荻田町	12.5%
1	大野城市	25.0%	33	宮若市	11.8%
1	新宮町	25.0%	34	福智町	11.1%
5	中間市	23.5%	35	直方市	10.5%
5	那珂川市	23.5%	36	田川市	10.0%
7	添田町	23.1%	36	糸島市	10.0%
8	小郡市	22.2%	36	桂川町	10.0%
9	志免町	21.4%	36	吉富町	10.0%
9	水巻町	21.4%	40	八女市	9.1%
11	古賀市	21.1%	41	篠栗町	8.3%
12	大川市	20.0%	41	芦屋町	8.3%
12	宗像市	20.0%	41	大刀洗町	8.3%
14	北九州市	19.3%	41	糸田町	8.3%
15	みやま市	18.8%	41	上毛町	8.3%
15	川崎町	18.8%	46	豊前市	7.7%
17	福岡市	17.7%	46	遠賀町	7.7%
18	筑後市	17.6%	46	広川町	7.7%
19	久留米市	16.7%	46	香春町	7.7%
19	太宰府市	16.7%	50	うきは市	7.1%
19	福津市	16.7%	50	宇美町	7.1%
19	朝倉市	16.7%	50	須恵町	7.1%
19	小竹町	16.7%	50	みやこ町	7.1%
19	大木町	16.7%	54	柳川市	4.8%
25	岡垣町	15.4%	55	飯塚市	3.6%
25	鞍手町	15.4%	56	嘉麻市	0.0%
27	行橋市	14.3%	56	久山町	0.0%
27	筑前町	14.3%	56	東峰村	0.0%
27	築上町	14.3%	56	大任町	0.0%
30	筑紫野市	13.6%	56	赤村	0.0%

※福岡県議会は87人中9人で10.3%

# 女性議員が増えると政治はどう変わる？

福岡・女性議員を増やす会代表 富永 桂子

各国の男女格差を調査した「グローバル・ジェンダー・ギャップ指数」(2019年)において、日本は153カ国中121位と主要7カ国で最低でした。足を引っ張るのは政治の分野で、日本のランクは144位となっています。昨年の統一地方選挙で福岡市の女性議員は62人中11人(前回6人)と倍近く増えましたが、影響力を確保できる比率とされる30%にはまだほど遠い状況です。

## ◇ 多様な声、政策に反映

それでは女性議員が増えることで議会はどう変わるのでしょうか。2020年に北九州市のアジア女性交流・研究フォーラム編集・発行の『アジア女性研究 第29号』※に答えの一つがあります。日本は2019年4月、台湾は2018年11月の統一地方選挙時に調査したものです。日本と台湾のすべての女性市議が「変わる」と回答しています。変化の具体例として、道路や建物などのハード面だけではなく子育て・教育・福祉などのソフト面が重要視されるようになったことや、多様な市民の声が政策に反映されるようになったことが挙げられています。また男性議員からも、新しい発想やこれまでになかったテーマが取り上げられ市議会が活性化した、という声も上がっています。

## ◇ 活動の幅広げる女性議員

女性議員を増やすために海外ではクォータ(割り当て)制を導入している国や地域は120以上に上っており、北九州市・福岡市の女性市議のアンケートからも、クォータ制を導入して地方女性議員を増やそうという積極的な声が聞かれました。一方でクォータ制の導入には懸念の声もあります。制度導入による数合わせよりも、性別役割分業を流動化させ、女性リーダーを育成することが先決ではないか、という意見です。ところが地方議員にクォータ制が導入された台湾では逆の現象となっています。すなわちクォータ制により女性の政治参画が促進されて、「男性は外、女性は内」という性別役割分担意識などの社会通念が打ち破られてきていること。そしてクォータ制で当選した女性議員がその地位にふさわしい能力を身につけ、さらに活動の幅を広げながら議員として力をつけていることが分かっています。

## ◇ クォータ制の導入を

総務省第31次地方制度調査会の答申では、女性や現役世代の立候補を難しくしている要因の一つに、立候補に際して退職を余儀なくされることを挙げています。多様な人材が議員になれるように、立候補に伴う休

暇保障制度や休職・復職制度の導入、公務員の立候補制限・議員との兼職禁止の緩和などの検討が答申されました。女性議員増加に向けて、クオータ制の導入や立候補と職業の両立促進が重要であると考えます。

※福岡女性学研究会「地方議会の女性議員増加をめざして 一日・台統一地方選挙時の比較調査から」



福岡・女性議員を増やす会が主催する女性のための政治スクールの様子 (2019年11月)

ジェンダーギャップ指数の  
主な国の順位  
(2019年12月)

順位	国名
1	アイスランド
2	ノルウェー
3	フィンランド
4	スウェーデン
5	ニカラグア
10	ドイツ
15	フランス
19	カナダ
21	英国
53	米国
76	イタリア
81	ロシア
106	中国
108	韓国
121	日本

※ジェンダーギャップ指数は、経済参画、政治参画、教育、健康の4分野の14項目について、男女平等の度合いを指数化して153か国の順位を決めたもので、世界経済フォーラムが毎年公表している。

お知らせ

「パリティひろば」開催しています

女性議員を囲んで気軽に政治を語る場にと2019年11月、意見交換会「パリティひろば」を始めました。市民と議員が一緒になって暮らしの中で感じている問題や不満などを出し合い、議論することから政治への関心を高めてもらいたいとの思いからです。政治を語る「井戸端会議」のようなイメージです。これまで2回開催し、いずれも活発な意見交換の場となりました。出席する女性議員は毎回変わります。年3回開催予定で「福岡・女性議員を増やす会」のHPやFacebookで案内をしています。



第1回開催の様子